



## 1 先輩から優しくアドバイス



企業説明の様子:関彰商事(株)

「地域産業理解セミナー」が1月29日(木)に開催され、一年生が参加し、この日、19社の説明に熱心に耳を傾けていました。

関彰商事(株)の鈴木さんは、「偶然にも高校の後輩に説明が出来て嬉しい」と話され、本橋梨心(土浦三高卒)さんは「先輩から、優しく教えて頂き有難かった」と笑顔で答えていました。日本システムエイト(株)の斎藤さんは「真剣に聞いてくれて嬉しい。みなさんに、楽しく伝えていきたい」と話されていました。森穂乃歌(那珂高卒)さんは「沢山の企業のお話を聞いて良かった」と嬉しそうに話していました。



企業説明の様子:日本システムエイト(株)



企業説明を廊下で待つ学生

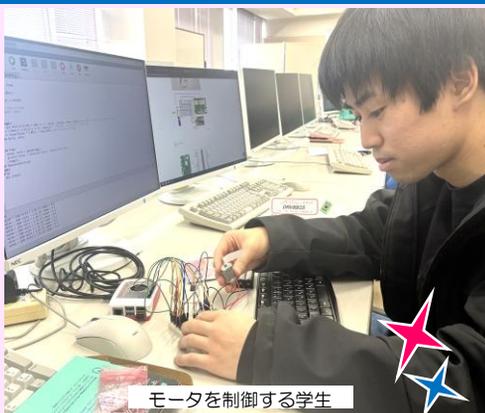


休憩時間にレポート  
まとめる学生

## 2 制御技術の腕を高めたい

システムコース2年の坂卓実(つくば工科高卒)さんは、「ラズベリーパイ」を使ってモータなどの制御をおこなっています。

坂さんは「高校でも馴染みのある制御技術ですが、これからはLinuxサーバでロボットを制御し技術力を高めたい」と笑顔で答えていました。



モータを制御する学生

## 3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

<記事トレ>茨城新聞(2026年1月8日)

### 「茨城新聞生成AI」スタート

本紙記事データと連携、地域の課題解決後押し

#### ◆要約

◎水地穂史さん(常磐大高卒) 茨城新聞社は2026年度、国内最高峰のセキュリティを誇るAIに本紙の確かな取材に基づく過去15年分の記事データを連携させた「茨城新聞生成AI」の提供を始める。

県内の企業・団体や自治体などの生産性向上と課題解決を後押しするものである。

#### ◆感想

◎水地穂史さん(常磐大高卒) 日常やビジネスで急速に普及したAIを利用する上で、機密情報や個人情報に外に漏れてしまうことが危惧される。しかし、茨城新聞AIは、入力したチャット内容が学習データとして利用されないようにブロックするなど、高いセキュリティ対策が施されている。大切に考えた。

◎渡邊正史さん(水戸葵陵高卒) 新聞記事をデジタル化する取り組みは非常に意義のあるものだと感じる。

長年蓄積され続けている記事データをデジタル化することで、これまでの出来事への分析や、傾向の分析に役立つものだと感じる。また、地域DXの基盤にもなると思う。

◎落合祐太さん(勝田高卒) 茨城県内の企業・団体や自治体、地域コミュニティの生産性向上と課題解決を後押しする生成AIを茨城新聞社が提供し始める。これまでの企業内での課題の解決や、地域での連絡調整などが円滑になり活性化していくと考える。

◎新里翔和さん(石岡商高卒) AIの普及が進む中、新聞の世界にもAIが使われることに驚きを感じた。サポートも手厚く充実しており、適正な生成AIを選んでいる。ITが進化する社会において、良い取り組みだと感じる。利用してみたいと思った。

◎相田泰我さん(水戸商高卒) 地方紙が自社記事という信頼性の高い地域データをAIに学習させ、セキュリティを確保した上で提供するので有益だと感じた。汎用AIでは不十分だったローカルな課題解決に対して地方創生への新たな可能性を感じた。

